



グループ討論のまとめ



* Aグループ

プログラム奉仕委員会 委員長 小野浩子

テーマ毎に自分の夢は何か、またなぜ、どうしてその夢なのかを自由に討論した。皆が将来の職業についての夢を持つ中で、具体的にはまだ決めかねているが自分は世界一周旅行をしたいというユースもいた。夢とは、将来なりたい職業だけではなく、様々な形があってもよい。そしてそのためにはどうすれば良いのかという話題に入った。自分たちの立場、学生であるということを考えると、当面の課題(勉強や受験)をまず突破しなければいけない。そして、人との繋がりを大切に周りの人(保護者、先生、友人等)のアドバイスをポジティブに受け止めることが大事である。世界中には夢を持つことさえ出来ない環境にいる人もいることを考えれば、夢を持つ自由があるということは幸せである。「夢は、今まだここにいない自分を思い描くこと」という結論で終えた。

* Bグループ

財務/奉仕資金委員会 委員長 山下博子

国際的に働きたい→他国の人々を救いたい。看護師になりたい→人の命と向き合える仕事がしたい。地域医療に携わりたい→1人ひとりの患者さんと向き合いたい。保育士になりたい→子どもに関する問題が多いので親も含めて救いたい。美術教師になりたい→想像力の大切さを広めたい。日本史教師になりたい→原爆を通して平和について伝えたい。などの理由で夢を是非実現したい。そのためには表現は異なるが“人との関わりが1番大切である”という結論に達する。

スランプ・挫折時、切り替えを大切にしてストレスを溜めない。精神面を鍛える。そのために知識を増すこと！経験を積むこと！が必要。

Bグループの夢の実現に向けて強調していきたいことは、人との関わりを大切にして行動に移すこと。メンタルを鍛えて踏み込む勇気。知識・経験などを通じて広い視野をもつ。以上を軸にグループ発表をまとめていった。

* Cグループ

環境/保健奉仕委員会 委員長 吉村淳子

夢の実現のためにどうすれば良いか？まず「自分のやりたいこと、具体的な目標を持ち、あきらめることなく、強い意志をもって努力する」「自分たちが働く頃の社会・世界を勉強して視野を広げる」「どんな仕事をするにも知識が必要なので、勉強して知識を自分のものにする」「雇用問題について、制度や機会を具体的に社会全体へ求めていく」など、ユースたちは自分たちがやるべきことを皆で語り合った。そして夢の実現のためには、自分たちの努力だけではどうすることも出来ないこともあるので、自分と周りを視野に入れ、先生や友人、保護者に協力を得たり助けを求めることも必要であるという意見も出た。最終的に、夢を実現させるためにしなければならないことが沢山あるので、日々の時間の使い方が重要であるという結論が出た。そして最後に言いたいことは“みんなで話し合っ得るものは無限大である”とのこと。ユースにとって討論会は得るものが多かったようである。

***Dグループ**

規約決議/SOLT委員会 委員長 本間恵美子

派手なパフォーマンスはなかったが、それぞれ個性豊かなユースたちで、皆積極的に発言ができていた。自ら進行役となる人がいる一方で、よく考えて重い言葉を発する人もいた。このグループは、与えられたテーマに忠実に進行し、具体的な夢や実現への努力、やりたいことに関してはその理由を明確に話していた。留学や人との出会いで、それまでの自分がガラリと変わった(良い方へ)という体験談を聞き、自分も留学したいという夢を語った人もいた。ただ、夢を突き進む過程では、「挫折」も付きものという冷静なスタンスも持ち、その時にどうしたら乗り越えられるかについても、意見交換していた。一人ではない！人とのつながりを大事に、視野を広く持つこと、そして何よりも「笑顔」が解決する！同時に相手の立場を理解すること、おかれた環境のせいにはしないとも。質問も飛び交い、和気藹々とした討議だった。きっと皆がひと回り成長した自分を感じたことだろう。

***Eグループ**

ソロプチミスト日本財団委員会 委員長 小徳恵子

Eグループのユースたちは、それぞれ将来の目標を持っていることに感心した。その目標は、ユースたちが今まで歩んできた過程で考え、見つけ、その夢を拓いていきたいと願っていた。それぞれのユースの夢の実現のために必要なこととして、多くのユースは「勉強」をあげており、学ぶことによってより知識を広げ、そして「人とのかわり」によって人の意見を聞くことで自分を客観視でき、新しい自分に出会えたりと自分が広がり、夢が具体的になっていくと語っていた。自分の夢に自信がもてない時は、他人に語って自分のモチベーションを上げ原動力とし、“意思を聞いてくれる人”“応援してくれる人”“理解してくれる人”をもつことが大切。そしてハードルは高ければ高いほど、くぐりやすいと視点の変換の重要性を語り合った。周りを巻き込めば辛いことも大丈夫！みんなで困難を共有しよう！というのが、Eグループの最後の結論になった。

***Fグループ**

メンバーシップ委員会 委員長 佐々木民子

全員司会、全員書記にすぐ対応。初めからグループとしてのまとまりが感じられた。山田コーディネーターが出される課題に対し一人一人の話から答えを見つけようと努力していた。また、それぞれが他の意見を消化しながら自分の考えをまとめ発言していた。話し合いの内容は、自分のことから周りに目を向け、社会問題へ視点を向けていった。自分の夢と今の自分の力を信じ、夢の実現に挑戦しようとしていた。

多くの生徒がユースフォーラムのグループ討論のような機会と場がなく、新鮮な経験だったようである。もっと沢山のこのような時間を欲している様子だった。素晴らしい時間の共有とつながりに感動されたことでしょう。

***Gグループ**

広報委員会 委員 鹿山洋子

「夢の実現をめざして」をテーマに行われたグループ討論。Gグループは皆活発で、全員将来なりたい職業がはっきりしており、夢の実現、課題に向けての具体的な発言が多く聞かれた。高校教師になるための大学進学および学費の捻出。声優になるために養成学校を調べ何度も声優に会って話を聞いたこと。介護福祉士の低賃金、重労働を分かった上で、反対する両親を説得したこと。CAになるために英検準1級を猛勉強していることなど、ユースたちは既に実践し、行動しているため説得力があった。自分の意見を言うだけでなく他の人の意見を尊重し聞く姿勢もできていた。また男女の雇用問題や区別と差別は違うこと等にも話がおよんだ。各人の夢は違っても、目標をもっている者同士が問題点を見つけ、繋がりあうことでポジティブ思考になり、より自分たちのすべきことが見えてきたと語った。